

# 平成20年度事業報告

## 基本理念の実現に向けての取組

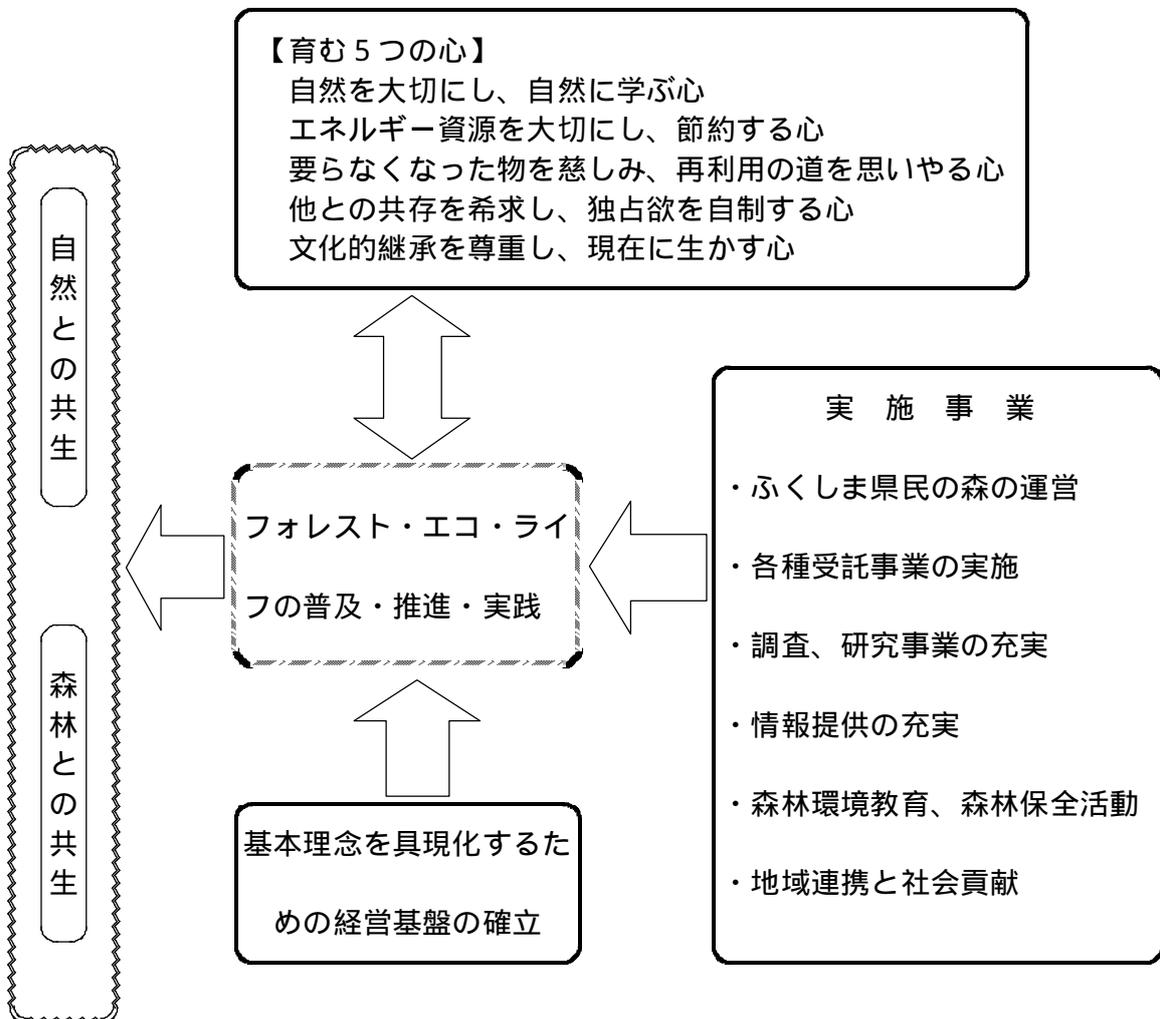
人間はもともと自然が対応できる範囲内で生存を果たしてきたものであるが、技術的進歩による生活規模の拡大は自然の対応範囲を超え、環境汚染、山野の荒廃と生物種の絶滅的変動など見過ごすことのできない現象を引き起こしている。

地球環境を守るため地球温暖化防止をはじめ様々な取組が進められており、県民の環境に対する関心が日増しに高まっている。

このため、ふくしま県民の森を主なフィールドに自然と共生しながら、健康で豊かな生活を送る、新しいライフスタイル「フォレスト・エコ・ライフ」の普及・推進・実践のため幅広い事業活動を実施した。

平成20年度は3年間の指定管理者最終年度のため、施設の効用が発揮出来るよう、より一層効率的な運営に努めた。また、平成21年度から5年間の新たな指定管理者に指定された。

## 基本理念体系図



## 指定管理者指定の経過報告

地方自治法の一部改正により、公の施設の管理について、適正かつ効率的な運営を図ることを目的に指定管理者制度が創設され、当財団は平成18年度から3年間ふくしま県民の森の指定管理者として、県民の平等な利用、関係法令の遵守や施設の効用の発揮に配慮して管理運営に当たってきた。

福島県は、平成20年度に3年間の指定期間が終了することから、平成21年度からの新たな指定管理者の公募を実施した。当財団は指定管理者に応募し、指定を受けることができたが、その経過は次のとおりである。

|           |                     |
|-----------|---------------------|
| H20.8.8   | 指定管理者募集説明会          |
| H20.9.11  | 理事会、評議員会の開催、申請内容の審議 |
| H20.9.18  | 指定管理者申請書提出          |
| H20.10.8  | 1次審査結果通知            |
| H20.10.14 | 2次審査会（面接審査）         |
| H20.11.6  | 指定管理者候補団体決定         |
| H20.12.26 | 指定管理者の指定（12月県議会の議決） |
| H21.3.30  | 管理に関する基本協定書の締結      |

指定期間平成21年4月1日～平成26年3月31日（5年間）  
管理費用総額 246,225 千円（5年間）

## ふくしま県民の森（森林学習施設区域）の管理運営

森林学習施設区域は、森林館、森林学習館、ユースキャンプ場、園地及び広場等で構成され、自然とふれあいながら森林の役割を体験し「自然に学び自然のしくみをよく知る」ための中心的な区域である。森林学習施設区域全体の利用者数は前年並みの結果となったが、森林館利用者が増加するなど施設利用目的が森林環境教育による利用が多かった。

これは、学校教育関係団体の利用が平成19年度から増加しており、森林環境税を活用した小中学校の体験学習の結果と考えられる。

### 1 森林学習施設区域全体の利用状況

平成20年度の森林学習施設区域の利用状況は、前年並みの162,531人の利用があり、大人は減少傾向にあるものの子供の利用は増加している。これは、教育機関や団体の利用が多く、環境教育への関心が高まっているためと考えられる。

表 - 1 全体の利用状況(人)

|    | 平成18年度  |       | 平成19年度  |       | 平成20年度  |       |
|----|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
|    | 利用者数    | 割合    | 利用者数    | 割合    | 利用者数    | 割合    |
| 大人 | 87,075  | 52.0% | 77,469  | 47.7% | 74,791  | 46.0% |
| 小人 | 80,513  | 48.0% | 85,044  | 52.3% | 87,740  | 54.0% |
| 計  | 167,588 |       | 162,513 |       | 162,531 |       |

森林館、ユースキャンプ場、園地、広場等の利用者

### 2 森林館の利用状況

森林学習施設区域全体の利用者が伸びないなか、森林ボランティアサポートセンターと連携し、県内外の教育機関に対しプログラムの提供、もりの案内人の紹介な

ど森林環境教育の場としての機能や効果を高めた結果、目標を達成することが出来た。

表 - 2 森林館利用者状況（人）

| 区 分    | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 目 標 値  | 9,165  | 9,350  | 9,530  |
| 利用者実績  | 11,730 | 10,689 | 12,134 |
| 達成率（％） | 128.0% | 114.3% | 127.3% |

### 3 森林環境教育の場の提供

森林学習施設区域では、福島県もりの案内人の会から派遣された「もりの案内人」の指導を交え、平成20年度は110団体、10,778人の学校教育関連団体の利用があった。

また、森林ボランティアサポートセンターと連携し、福島県内外の教育機関、企業等に対し、森林環境教育プログラムの提供や指導者（もりの案内人等）の紹介、プログラム実施までのコーディネートを行い森林環境教育の場の提供を実施した。

### 4 財団主催のイベント・プログラムの提供

平成20年度財団主催のイベント・プログラム実績は、実施、企画回数が320回、参加者数が7,014人で目標を達成することが出来た。

イベント・プログラムは年間を通じて実施したが、ゴールデンウィーク、夏休み及び、年末年始には集中的に開催し多くの参加者を集めることが出来た。地域で活躍されている人々の協力を得て地域力を活かした新たなイベント企画も実施した。

アウトドアプログラムは、当日の気象状況に左右されるため、企画したプログラムに参加者が集まらない場合も見受けられた。

表 - 3 単位：人

| 区 分    | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 目 標 値  | 5,470  | 5,580  | 5,685  |
| 参加者数実績 | 6,992  | 8,393  | 7,014  |
| 達成率（％） | 127.8% | 150.4% | 123.4% |

### 5 10周年記念事業の実施

平成20年度は「フォレストパークあだたら」が開設して節目の10年目を迎え利用者数は約55万7千人に達した。この間、多くの県民、利用者、関係機関のご理解をいただき、歩んでこられたことに深く感謝申し上げます。

10周年記念事業は、利用者への感謝と今後のステップアップを目的に取組み、一過性の事業でなく、環境に関心を持つ人材の育成ができる事業を実施したが、その主なものは次のとおりである。

・「あだたら生物クラブ」

小、中、高、大学生を対象に、生き物の正しい調査方法、分析方法などを学び生き物から環境を知ることのできる人材の育成を行った。（4回、52名の参加者）

・「森のようちえん」

幼児期の自然体験をとおして、“自然を大切に自然に学ぶ心”をもつ情緒豊かな子供を育成する。（4回、107名の参加者）

・「森のようちえんフォーラム福島大会」

森のようちえんの活動を県内に広めるため、関係者の研修と交流を目的として平成20年10月18日～19日に開催し44名の参加を得た、今後はこの活動を「フォレストパークあだたら」から東北地方や全国に向けて展開していきたいと考えている。

6 施設管理と安全の確保

多岐にわたる施設を最適な状態で利用者に提供できるよう、緑地管理、森林管理、清掃管理及び保守点検等施設の設置者である福島県と連携を密にし計画的な施設管理を実施した。

利用者が安全に利用できるよう、散策路や宿泊施設等に接しているヤマウルシやスズメバチの巣は施設管理の一貫として除去した。

さらに、野生動物と利用者が互いに相手を認識しやすくするため、散策路周辺の森林については、見通しの良い状態を維持するとともに施設巡回の強化を図った。

各種受託事業の実施

自然との共生思想普及の実現に係る以下の受託事業を実施した。

1 福島県もりの案内人養成講座の運営

もりの案内人養成講座は、森林づくりや自然観察会など森林とのふれあいを通して森林の役割などを県民に広く伝えるボランティアを養成するための講座を実施した。

平成20年6月13日より平成21年1月18日までの5期15日間にわたり、福島県からの委託により養成講座を運営した。

- ・第1期6/13～15、第2期7/11～13、第3期9/26～28
- 第4期11/7～9、第5期1/16～18
- ・平成20年度認定者25名（認定者総数368名）
- ・当財団職員は、一部講座の講師も務め積極的に講座の運営に当たった。

2 森林ボランティアサポートセンター開設業務の実施

森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成するため、森林ボランティアをサポートする、次の業務を実施した。

- ・電話、来訪者、FAXやメールによる各種相談への対応
- ・森林ボランティア活動に必要なとされる各種情報の収集
- ・ホームページの運営（年間アクセス48,336件）、新聞等の発行による広報業務
- ・森林ボランティア活動の調整業務
- ・森林整備機材の貸出、管理業務

3 鳥獣保護センターの管理運営

救護実績

平成20年度、福島県鳥獣保護センターに救護された動物数は、274頭羽で対前年比85.4%、その内訳は鳥類が214羽、ほ乳類が60頭である。また、野生復帰率（平成10年度からの累計）は32.4%、死亡率は64.1%で年度末の飼育頭数は91頭羽で対前年比64.5%である。

表 - 4 野生復帰、死亡数については平成10年度からの累計

| 年 度    | 年度末<br>飼育数 | 当該年度<br>収容数 | 累 計<br>収容数 | 野 生 復 帰 |       | 死 亡   |       |
|--------|------------|-------------|------------|---------|-------|-------|-------|
|        |            |             |            | 復帰数     | 復帰率   | 死亡数   | 死亡率   |
| 平成20年度 | 91         | 274         | 2,879      | 932     | 32.4% | 1,902 | 64.1% |
| 平成19年度 | 141        | 321         | 2,605      | 840     | 32.2% | 1,670 | 66.1% |

傷病野生鳥獣を保護・治療し野生復帰させるための業務を実施したが、傷病野生鳥獣の野生復帰には初期治療での対応が非常に重要である。  
このため、県自然保護課、地方振興局及びNPOと連携しながら収容に当たった。

#### 地域社会の安全・安心を阻害しない管理運営

高病原性鳥インフルエンザによる家禽の大量死、昨年4、5月にかけてオオハクチョウから高病原性鳥インフルエンザが5例確認されたことを受け、今冬はハクチョウをはじめ水鳥への人工給餌活動を中止する事例が県内各地に広がった。  
本県においても鳥インフルエンザの発生や疑われる事案が起きる可能性が考えられる。傷病野生鳥類を扱う当財団としては、鳥獣保護センターに高病原性鳥インフルエンザ、若しくは疑いのある鳥類等が持ち込まれれば、県民の森をはじめ地域社会や地域経済に極めて大きな影響が発生するものと認識している。  
傷病野生鳥獣の受け入れは関係機関とも緊密に連携し、より慎重に取り扱い、大玉村や地域住民さらに、ふくしま県民の森利用者に不安を与えない安全で安心な施設の管理運営を今後とも実施する。

#### 4 「命の尊厳」啓発事業

人と野生動物の共生及び生物の多様性の保全を図っていくため、傷病鳥獣の救護をとおり鳥獣保護思想の普及啓発と傷病鳥獣の野生復帰率の向上を図った。

##### 野生動物救護に関する研修事業

県内の愛鳥モデル校（小学校3校、中学校2校）を対象に鳥獣保護思想の普及啓発を図る研修授業を実施した。

##### 野生動物救急救命ドクター救護技術支援事業

野生動物救急救命ドクターと保護センターが傷病鳥獣の救護に係るカルテを集積、共有化し救護技術の向上を図った。

#### 情報と森林環境教育の提供

##### 1 広報活動

ふくしま県民の森のイベント、プログラムや自然情報などを広く一般県民やアウトドアファンに周知する目的と広報費用を抑制するため、無料での媒体協力を得ながら広報活動を行った。情報を得た利用者から多数の問い合わせをいただき、ふくしま県民の森の存在をPRすることが出来た。

その結果、年間91件の取材、情報誌への掲載がありイベントへの多数の参加者を得ることができた。

## 2 ホームページの充実

財団のホームページでは、基本理念、運営の基本方針、中長期計画や財務状況を公開して透明性の高い運営を実施した。

フォレストパークあたらのホームページは、四季の変化にともなう県民の森の自然環境、F E L 会員制度、予約状況をはじめとする利用者サービスを積極的にアピールしたほか、ゴールデンウィークや夏休み期間中のイベント・プログラム情報を随時提供した。

利用者からの電話対応時には、多くの方からホームページを見て情報収集した話を聞き広報の重要性とその効果を再認識した。

## 3 教育・研修・講演

年間 173 件の研修を受け入れた

財団のもつ教育・研修活動のノウハウとふくしま県民の森の持つ教育・研修活動機能、さらに財団の持つ人的ネットワークを有効活用した結果、一般企業、行政機関、学校、団体などから多数の研修利用があった。

また、新たな研修の動きとして、自然災害時のライフラインの災害支援隊の研修の場としても利用された。

24 件の講演の実施、講師派遣

講演については、財団スタッフの人的資源の活用と財団の P R 活動を兼ね、研修会の講師派遣や講演活動を行った。

### 森林環境調査・自然環境保全への取組

独立大学法人福島大学と連携し、森林環境保全に欠かせない森林環境での昆虫相の把握を目的に実施した。これらの結果は 1 2 月に実施した調査研究結果の発表会において一般公開し自然環境に興味のある多くの県民の参加があった。福島大学共生システム理工学類塘研究室のご厚意により「ふくしま県民の森の水生昆虫」のリーフレットと昆虫標本の提供を受け、施設利用者に活用していただいている。

自然環境の保全には基礎調査が重要なことから、福島大学などとさらに連携し調査を実施する。

### 交流推進事業

#### 1 地域との連携

フォレスト・エコ・ライフの推進には地域との連携が欠かせない。地元大玉村と、森林環境を総合的に使いながら健康を増進する、「フォレストセラピーの体験」、「フォレストセラピーおおたまフォーラム」を実施した。

また、あだたら高原地域を温泉とウォキングで健康づくりに貢献して、地域の活性化を図るため、岳温泉旅館協同組合が主催するプロジェクト「日本一の健康保養温泉地創出事業」へ参画し地域振興のプランづくりに取組んだ。

## 2 他団体との連携

県内外の関連団体、異業種団体とも積極的に交流し、協賛事業等を実施した。

県民参画の森林づくりや多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進のため、他団体と連携し学校関係緑化コンクール、ふくしま森林の感謝祭、福島森林林業振興大会、ふくしま育樹祭及び森林整備シンポジウム in 福島に参画した。

「森のようちえん」運営については、森の楽校フォレストランド（猪苗代町）と、「あだたら生物クラブ」運営については、NPOわかば自然楽校・福島大学と、「もりのガイド」等の運営についてはNPO福島もりの案内人の会と協働事業を行った。

環境負荷の少ない緑地管理と授産施設への労働機会の提供から授産施設連合体と協働で緑地管理を実施した。

また、森林整備や県民の森の運営に関心のあるボランティアには、環境整備と安全施設整備の協力を得た。

## 公益法人改革

民間非営利部門の活動の健全な発展を促進し、民による公益の増進に寄与することを目的に、公益法人の抜本的な改革に向け新制度が平成20年12月1日に施行された。当財団においても、公益財団か一般財団かの選択をして新制度施行後5年以内に移行申請を行う必要がある。

このため、平成20年度には新公益法人制度に関する説明会への参加、財団内に公益法人等検討委員会を設け、将来の基本的な運営方針の検討を進め、関係団体の申請に関する情報収集を行った。

## フォレストパークあだたら（オートキャンプ場）の運営

### 1 事業活動

平成20年度の気候は8月中下旬の低温日照不足を除くと比較的穏やかで、台風などの荒天が少なく、冬は暖冬の影響で積雪が少なかったため、クロスカントリースキーやスノーシューを使った冬期間のプログラムが十分に実施できなかった。

昨年夏以降、経済環境の急激な変化にともない、ガソリン価格の急騰や景気の後退の影響等によりフォレストパークあだたらの事業運営にも影響があったと考えられる。会員制度の内容の充実、アンケート調査による利用者の意向調査、会員向けの企画や10周年記念イベントの開催による利用者の増加対策に取り組んだが、オートキャンプ場の事業収入は対前年比 3.3%、オートキャンプ場利用者（幼児含）は対前年比 2.1%の結果となった。また、温泉利用者は平成19年5月に温泉ポンプの故障があったことから対前年比プラス12.5%の伸びとなったが、ポンプ故障を踏まえれば、ほぼ例年並みの利用者数と考えられる。

#### (1) 上半期の事業概況

GWの連休期間や夏休み前半は、天候に恵まれ7月までは前年並みの利用者、事業収入があった。原油の先物取引価格が高騰してガソリン価格が上昇し、本格的な夏のキャンプシーズンに遠出を控える傾向があった。

8月にはガソリン価格が190円/台に高騰したこと、物価上昇による消費の減退、8月中旬以降は降雨、日照不足や低温の影響で、キャンセルが多く発生し、本来一番利用者や事業収入が多い時期に、利用者や事業収入が落ち込んだことは1年間の事業運営に大きな影響が出た。

#### (2) 下半期の事業概況

年末年始の利用者は、深刻な経済状況の中で休暇の過ごし方が、より近くで短期間の傾向が強まり、1月のコテージ7人用は利用率が前年比83%と落ち込み、元日のトレーラー利用は前年9台（満室）に対し今年6台と低迷した。

3月にはFELメンバーズくつろぎプランを実施したことや、3月28日から高速道路割引制度がスタートしたことから利用者、事業収入とも予想を上回った。

### 2 事業収入

事業収入が年々漸減しているため、団体の研修受け入れ、FEL会員制度の充実、宿泊プランの実施、10周年記念事業の開催、及び各種イベントの見直しにより誘客を図った。

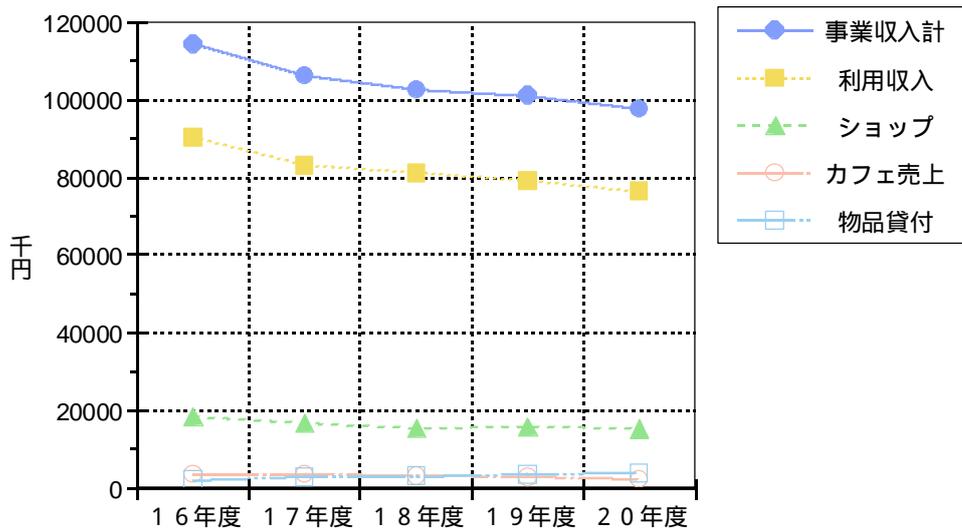
しかし、平成20年度の事業収入は、97,628千円、前年比 3,367千円（3.3%）の結果となった。

表 - 5 単位：千円

|       | 16年度    | 17年度    | 18年度    | 19年度    | 20年度   |
|-------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 事業収入計 | 114,215 | 106,179 | 102,601 | 100,995 | 97,628 |
| 利用収入  | 90,225  | 83,026  | 81,071  | 79,041  | 76,344 |
| ショップ  | 18,406  | 16,737  | 15,347  | 15,678  | 15,295 |
| カフェ売上 | 3,502   | 3,594   | 3,158   | 2,841   | 2,223  |
| 物品貸付  | 2,082   | 2,822   | 3,025   | 3,435   | 3,766  |

物品貸付にはFEL会員制度収入含む。

図 - 1 年度別収入状況



### 3 利用者数

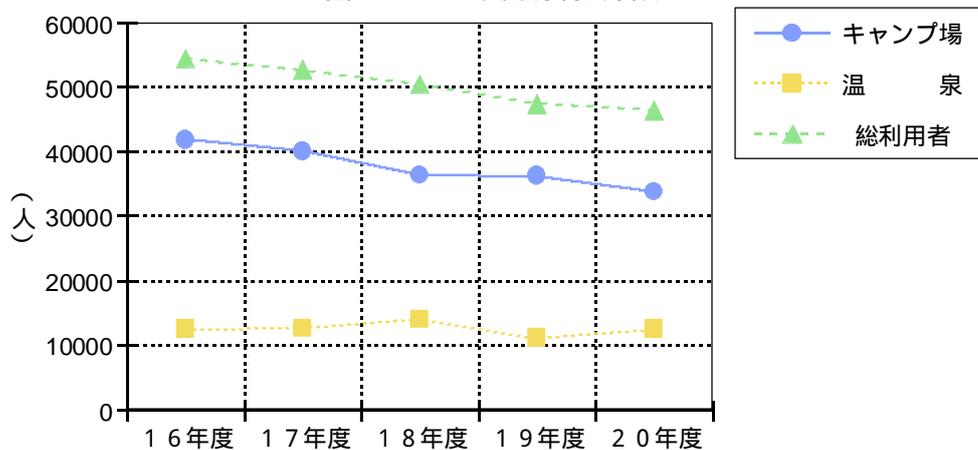
総利用者数は、46,422 人平成 19 年度比 1,009 人 ( 2.1% ) となりました。この内訳を見てみると、オートキャンプ場はガソリン価格高騰等の経済環境の変化により、遠出を控え「滞在型キャンプ」から「日帰型キャンプ」へ変化したことによる 8 月、9 月、12 月及び 1 月の減が年間利用者数の減少になった。

温泉利用者は 1,394 人(12.5%)の増加となったが平成 19 年 5 月の温泉ポンプ故障を考えるとほぼ例年並みであった。

表 - 6 年度別利用者数 単位：人

|       | 16年度   | 17年度   | 18年度   | 19年度   | 20年度   |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| キャンプ場 | 41,898 | 40,077 | 36,427 | 36,284 | 33,881 |
| 温泉    | 12,496 | 12,668 | 14,045 | 11,147 | 12,541 |
| 総利用者  | 54,394 | 52,745 | 50,472 | 47,431 | 46,422 |

図 - 2 年度別利用者数



#### 4 各施設の稼働率

トレーラーやコテージなどの箱物施設はオートキャンプ場全サイト収入の約70%を占めるキーとなる施設である。これらの施設は設置後10年を経過していること、山間地特有の厳しい気象環境の中に存在することから、老朽化の進行は平地と比較して格段に速く進んでいる。躯体や設備の計画的かつ早急な修繕を着実に実行する必要がある。

最近では、少人数単位の利用者が多く、トレーラーや5人用コテージの人気の高い。テントサイトは、キャラバンサイトの利用率が低下しているが、キャンピングカーも利用でき価格が安い個別サイトの利用が好まれている。

表 - 7 箱物施設稼働率 単位：%

|       | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|-------|------|------|------|------|------|
| トレーラー | 20.9 | 21.5 | 19.0 | 19.8 | 19.6 |
| コテージ5 | 32.5 | 31.9 | 28.3 | 29.9 | 28.1 |
| コテージ7 | 24.5 | 24.6 | 23.7 | 22.8 | 21.3 |

図 - 3 箱物施設稼働率

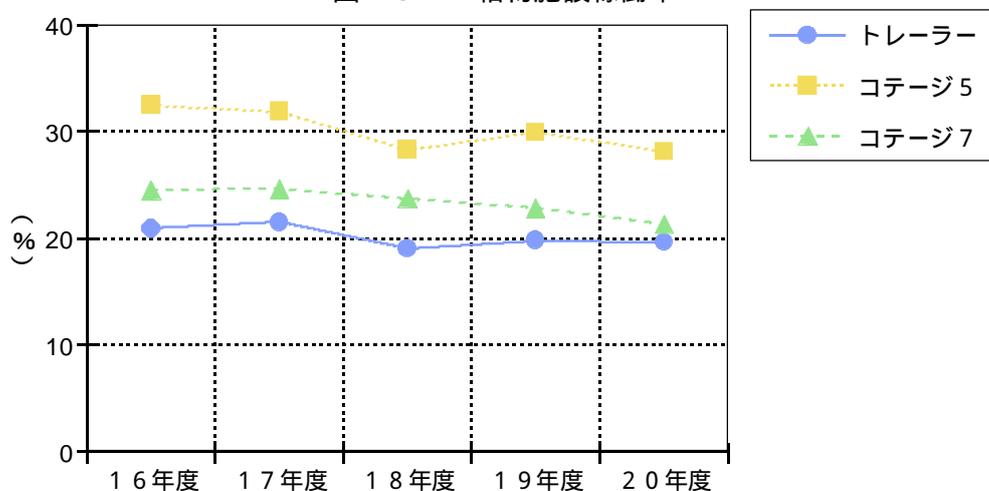


表 - 8 キャンプサイト稼働率 単位：%

|          | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 個別サイト    | 22.0 | 20.5 | 19.7 | 18.9 | 18.8 |
| キャラバンサイト | 11.5 | 11.7 | 10.8 | 10.2 | 8.7  |
| グループサイト  | 17.6 | 16.4 | 14.3 | 13.0 | 12.4 |
| フリーサイト   | 15.4 | 14.3 | 11.9 | 13.2 | 12.3 |

5 オートキャンプ場利用者の都道府県別調べ

平成20年度は、33都道府県から4,434組の利用者があった。県内利用者は38.1%を占め前年より1.6%の増加となり、県外は宮城、東京、埼玉、千葉、茨城の順でこの5都県で約46%のシェアを占める結果となった。繁忙期は、県内利用者の利用率が前年を上回り、景気後退のため遠出を控えた結果と思われる。また、3月は県内利用者率が前年より低下しているが、これは高速道路料金割引の影響によるものなのか、今後さらにこの傾向が続くのか見極める必要がある。

表 - 9 都道府県別上位利用組数 単位：組

|      | 福島    | 宮城  | 東京  | 埼玉  | 千葉  | 茨城  | 栃木  | 神奈川 | その他 |
|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 利用組数 | 1,688 | 594 | 394 | 367 | 345 | 322 | 205 | 198 | 321 |

図 - 4 利用者の都道府県別

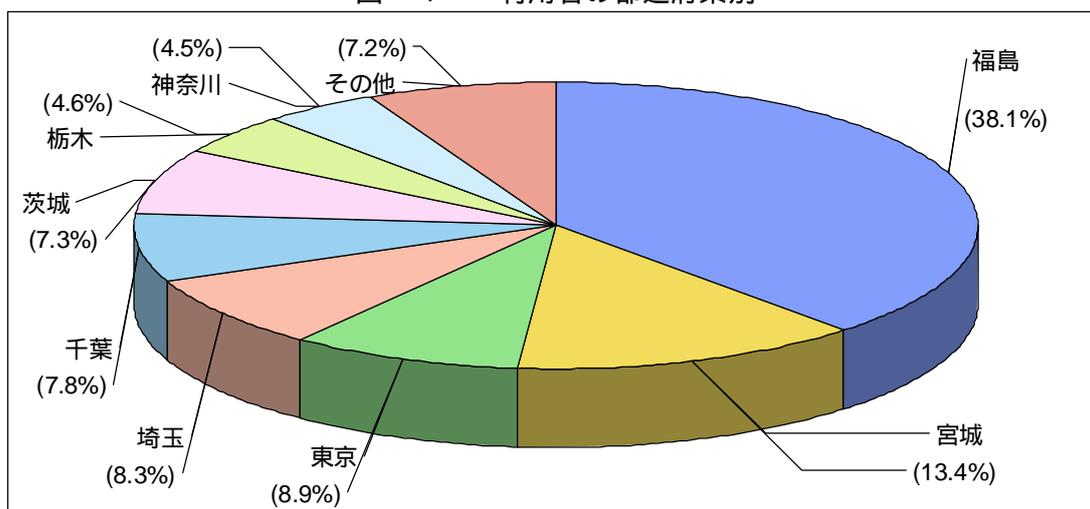
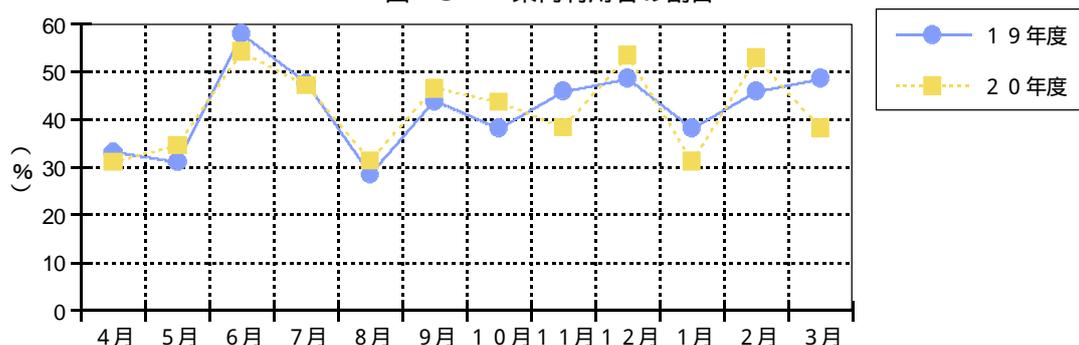


表 - 10 利用者に占める県内利用者の割合 単位：%

|      | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 19年度 | 33.1 | 31.0 | 58.0 | 47.6 | 28.4 | 43.8 | 38.1 | 45.9 | 48.6 | 38.1 | 45.9 | 48.6 |
| 20年度 | 31.0 | 34.5 | 54.2 | 47.1 | 31.3 | 46.5 | 43.6 | 38.3 | 53.4 | 31.2 | 52.9 | 38.1 |

図 - 5 県内利用者の割合



## 6 県内利用者の市町村調べ

県内50市町村からの利用があり、福島市、郡山市、いわき市や二本松市の利用者が多く中通り地方の近接市町村の利用者が多い。また、人口1万人当たりに換算した利用者数は大玉村、本宮市、二本松市の順になっている。今後は浜通り、会津地方の利用者増加が課題である。

表 - 1 1 市町村別利用組数 単位：組

|      | 福島  | 郡山  | いわき | 二本松 | 須賀川 | 本宮 | 伊達 | 白河 | 会津若松 | 大玉 | その他 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|------|----|-----|
| 利用組数 | 475 | 470 | 132 | 126 | 78  | 66 | 40 | 38 | 32   | 25 | 206 |

図 - 6 市町村別利用状況

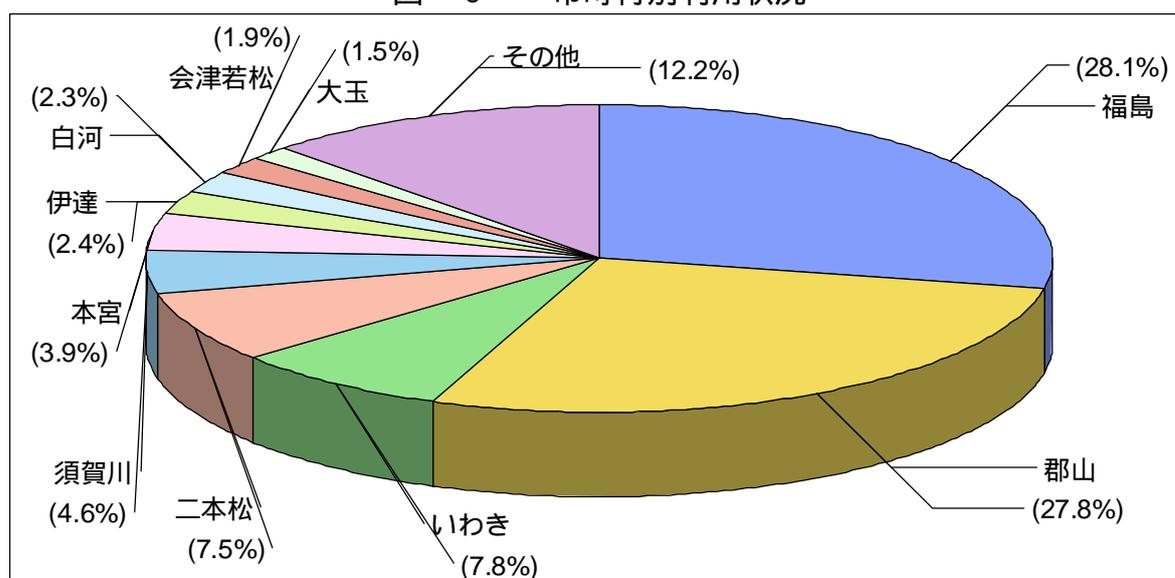


表 - 1 2 人口1万人当たりの換算利用者数 (上位5位)

|        | 大玉村   | 本宮市   | 福島市   | 郡山市   | 須賀川市 |
|--------|-------|-------|-------|-------|------|
| 1万人当人数 | 227.4 | 161.6 | 150.2 | 105.9 | 80.2 |

## 7 利用者の宿泊日数

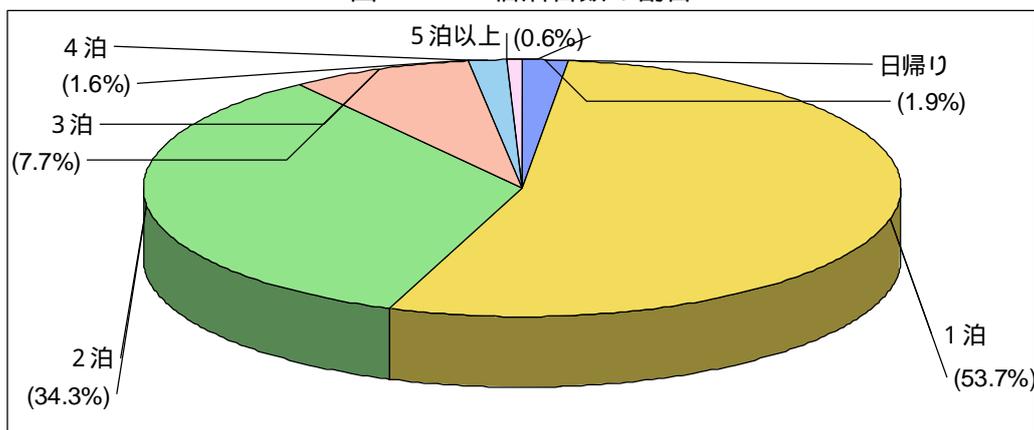
1、2泊組が88%を占め短期間の利用者が多い、長期間の利用者は閑散期に多く連泊数は休日の並びに左右される傾向にある。

連泊は夏休み、年末年始や3連休期間へ集中している、キャンプでは家にいる時より、環境への関心が強まるとの調査結果が出ていることから、さらに環境意識を高めるためにも、滞在日数を少しでも増やす企画が大切である。

表 - 1 3 宿泊日数別 単位：組

|      | 日帰り | 1泊    | 2泊    | 3泊  | 4泊 | 5泊以上 |
|------|-----|-------|-------|-----|----|------|
| 利用組数 | 86  | 2,383 | 1,521 | 343 | 73 | 28   |

図 - 7 宿泊日数の割合



### 8 利用者の年齢層

利用者の年齢層は、10代から70代の幅広い年齢層であるが、子育て世代に当たる30～40代が80%以上を占め利用者の中心である。この傾向は全国のオートキャンプ場においても同様で、自然の中で家族そろって楽しむファミリーキャンプが主体である。したがって、今後は少子化の時代を迎え少子化による利用者の減少につながることも懸念される。

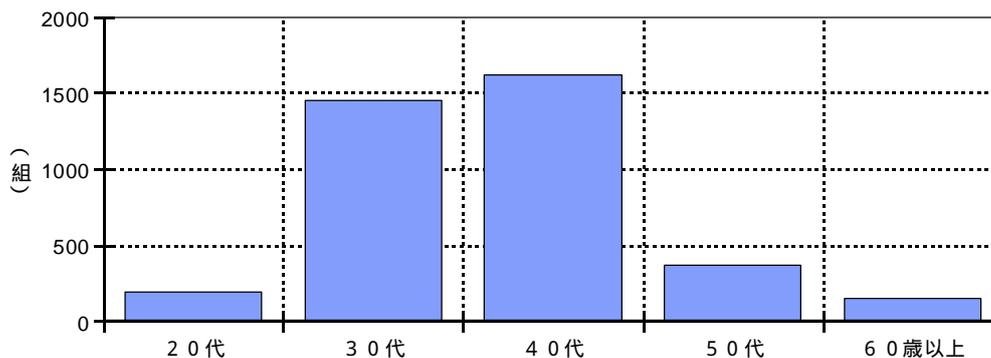
団塊の世代が定年退職を迎え、団塊世代の利用が増加するのではないかと期待したが、残念ながら増加傾向は見られない。第2次ベビーブーム世代が子育て真っ最中のためこの世代の利用に期待したい。

景気が低迷する中で、キャンピングカーの販売台数が上昇傾向にある。この利用は、キャンプに行くのではなく旅行に行き、「サービスエリア」や「道の駅」に止めて休息するケースが多いとされているが、これからはオートキャンプへの活用を願いたい。

表 - 14 利用者の年齢層

|      | 20代 | 30代   | 40代   | 50代 | 60歳以上 |
|------|-----|-------|-------|-----|-------|
| 利用組数 | 197 | 1,456 | 1,623 | 369 | 153   |

図 - 8 年代別の利用状況



## 9 リピーター率

リピーター率は年々増加傾向にあるが、再びフォレストパークあだたらを利用し  
ていただくためには、顧客満足度の向上と利用者の意識を適確に把握することが大  
切と考えている。利用者のアンケート調査を実施した結果、利用者がキャンプ場を  
評価する要素は次の通りである。

- 宿泊施設やテントサイト設備の充実
- 清潔で快適な施設環境
- 自然環境や環境保全（ゴミ収集、環境維持）
- 場内の雰囲気（心地よさ、安らぎ、楽しさ）

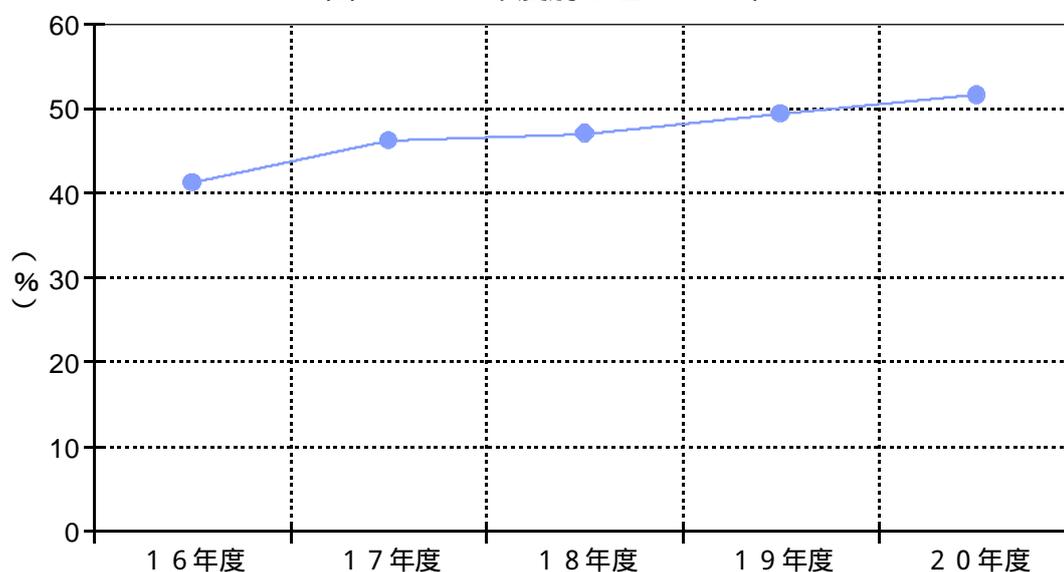
再利用していただくためには、当財団が常に利用者へ「安全、清潔、静寂」を提供  
すること、また今まで以上に施設管理に細心の注意を払い、質の高いサービスの提  
供を全職員が認識して業務に当たることである。

表 - 15 年度別のリピーター率 単位：%

|        | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|--------|------|------|------|------|------|
| リピーター率 | 41.2 | 46.2 | 47.0 | 49.4 | 51.6 |

表示文字列

図 - 9 年度別リピーター率



## オートキャンプ施設の管理運営

オートキャンプ場施設開設以来10年が経過したこと、施設本体は山間地気候の厳  
しさを外壁や屋外構造物の腐朽や劣化が急速に進行している。また、各設備につい  
ては耐用年数が到来するなど、管理ではメンテナンス作業が急激に増加している。

設置者である福島県が計画的な修繕計画のもと修繕を実施したが、限られた予算  
の中では腐朽や劣化の進行に追いつかないのが現状である。

利用者が安全かつ安心して過ごし、設置目的を達成するためには、より一層の努力  
が求められる。

利用者のアンケート調査から、ハードの質の高さが利用する大きな要素となっていることから施設の整備は利用者増加に重要であると考える。

- ・木造建造物であるコテージではバルコニー、大窓、外壁部の腐朽が目立ち、利用者の安全や快適性の確保に苦慮している。
- ・常設トレーラーでは暖房、給湯、排水設備、窓などの開口部が劣化していたが、排水設備については改善され、暖房、給湯の一部も改善されたが今後引き続き修繕を進めなければならない。
- ・箱物はチェックイン前に十分な清掃と設備点検後に提供しているが、突然利用者からの設備不具合の連絡が多くなり、夜間などは十分な対応ができないことがある。

### F E Lメンバーズ会員制度事業

会員制度は、利用者へのより質の高いサービスの提供と、リピーターの確保を目的に平成19年3月から実施しているが実質的な制度の運用は平成19年度からスタートした。会員制度内容をホームページに公開さらに予約受付時の電話によるPRの結果、徐々に会員制度も浸透してきている。

会員数は平成19年度744人に対して平成20年度は1,225人の登録があり481人の増加となった。また、会員が施設を利用する割合は平成19年度が12.4%であるのに対し平成20年度は18.7%で6.3%の増加になった。

閑散期の利用増進のため会員向けに「手ぶらで楽しむ、冬のくつろぎプラン」を企画し実施した。

表 - 1 6 F E L会員数 単位：人

|     | 18年度 | 19年度 | 20年度  |
|-----|------|------|-------|
| 会員数 | 69   | 744  | 1,225 |

表 - 1 7 会員の利用割合

|         | 19年度 | 20年度 |
|---------|------|------|
| 利用割合(%) | 12.4 | 18.7 |

### 予約管理システムの更新

現在の稼働予約管理システムは、フォレストパークあだたらが竣工した時に導入されたものである。使用中にシステムがフリーズ状態に陥ったり、修理パーツが製造されていないため十分な保守管理が不可能になった。財団のメインシステムがダウンすれば予約管理や経理処理に甚大な影響がでるため、新予約管理システムを導入した。

導入システムは、ふくしま県民の森全域(コースキャンプ場、オートキャンプ場等)を一括管理可能なことやイニシャルコストだけでなく保守管理を含めたトータルコストの検討と機能についても詳細に分析し採用した。